

浅草本願寺(東本願寺) 見学記録



大正12年9月1日、関東大震災が発生。地震には耐えたが、火災で焼失。
昭和9年11月26日、定礎式を挙行し、本堂再建が始まる。
コンクリート杭を480本打ち込んで基礎を造り、昭和11年には蓮如上人御親修のもと、上棟式が行われ、同14年に遷仏法要が厳修された。しかし、第二次大戦末期の昭和20年3月、空襲により被災し、本堂内部は全焼したが、外郭は鉄筋コンクリートのため残った。

東本願寺ホームページより



正面が本堂(RC造)



昭和9年11月着工～昭和14年11月竣工 設計:加護谷祐太郎 施工:戸田組





出三斗+出組/柱の上部は粽がみえる/中備えは間斗束



支輪部分や向拝の斗椀・虹梁・手挟み部分および高欄部分は色を違えている





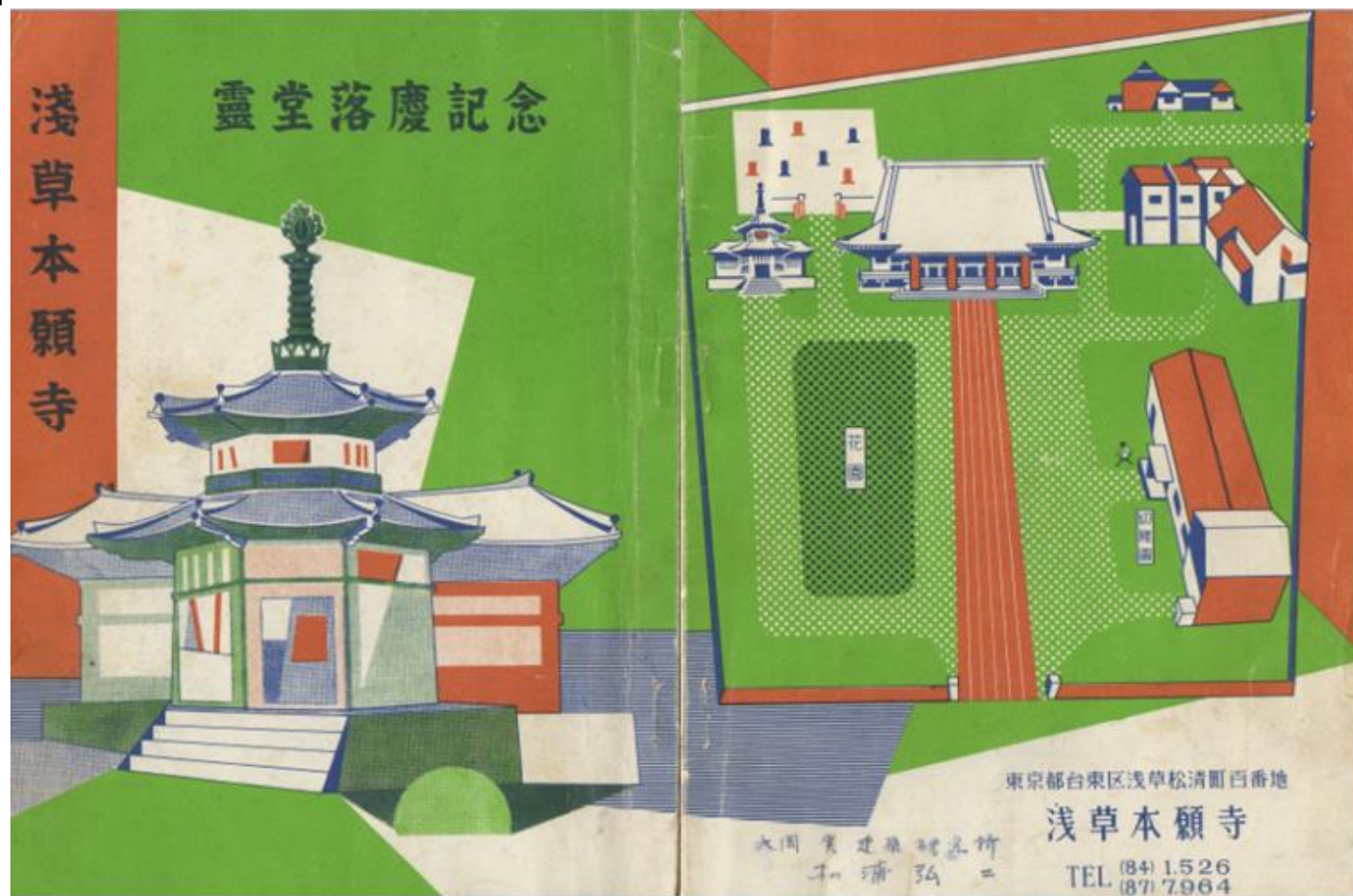


懸魚が大きすぎるように感じた



その他妻飾りもかなり汚れている

資料1



本堂の左に霊堂、右手前には幼稚園がみえる



(淺 草 本 願 寺 全 景)



このスペースに「浅草霊堂」が建設されたのだが
諸事情で解体されて今は墓地となっている。
(本堂とは下の写真のような位置関係であった)

資料3



資料4



資料5



資料6





気を取り戻して境内の右側に回ると別の門と妻面が見える



裏側に回るとボリュームを感じると同時に老朽化(汚れ)が目立つ



かなり汚れている(裏のメンテナンスまで手が回らないようである)



廃墟のようでもある



街の景観としてこのように見苦しい状態のままに放置しておいてよいのか(早急のメンテナンスが望まれる)



このようにして折角の昭和初期のコンクリート寺院が解体されていってしまうとしたら非常に残念である

門信徒会館「慈光殿」
解体された霊堂の機能はこの建物で賄っているようである



申し訳程度の垂木が付いている



もう少し境内全体のデザインの調和が図れないものだろうか



屋上には不釣り合いな塔がのっている



浅草浄苑(堂内墓)及び浄華堂(納骨堂)の一部のようである

かなり汚れた幼稚園の建物(コンクリート打ち放しの一世を風靡したころのデザインだがメンテナンスがされないということになる)



明治35年10月に創立され近年100周年を迎えた台東区最古の私立幼稚園

この角の建物(書院)も本堂のデザインと幾分かでも調和するようなデザインになっていればと惜まれる



すぐ近くの別の寺院だがマンションに埋没して衰れた状態になっている(ちなみにコンクリート造である)



地下鉄(田原町)への帰り際、落ち込んだ顔をふと上げるとここでもスカイツリーが見え、何故かホットするのです



松浦 隆さんがファイルにコメントを投稿しました

10年近く前に境内に入った時のことです。もちろん霊堂は存在していましたが、本堂の荒れ具合に唖然としました。

この報告書にもある裏側の惨状がそのまま、正面も荒れ放題になっていました。特に垂木が木製で天井スラブにボルトで止めてあるのですが、その垂木が何本も朽ち果てて落下していました。「お金がないのかねえ。」と話をしあげた母が言っていたのを覚えています。報告書の正面写真を見て、最近修理が行われたことが分かります。

新しくできた霊堂については、寄進の案内が和光に何度も届いていました。寄進の一部を使って正面から見える部分を修理したのでしょうか。裏面まではお金が足らなかったと言うことでしょう。

コメントの
表示

年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
昭和29.02	1954	東本願寺 浅草霊堂	東京都 台東区	昭和29.02~30.04	松浦弘二	小野薫・佐治泰次	木田建設	RC造